

1. スキー公認検定員規定第3条に定められている(検定の範囲)について、A・B・C級検定員が、各々検定できる範囲を記しなさい。

(1) A級検定員

(2) B級検定員

(3) C級検定員

2. スキー公認検定員規定第12条に定められている(資格の停止)について()の中に適当な語句を入れなさい。

(1) 指導員、準指導員及び検定員の()を納期までに納入しないとき

(2) 任期中にやむを得ない理由で()に参加できなかったとき

3. スキー公認検定員規定第13条に定められている(資格の喪失)について()の中に適当な語句を入れなさい。

(1) 本連盟の()に違反し、()を汚すような行為があったとき

(2) 所定の()に()したとき

(3) 資格の停止期間が、()したとき

(4) その他指導員及び準指導員の()したとき

4. ターン運動の原因について次の3つを説明しなさい。

身体運動が直接的にスキーの方向を変えるもの:

身体運動により物理運動がターン運動を導くもの:

ターン運動の継続を可能にするもの:

5. スキーバッジテスト規定第17条に定められている級別テストにおける(受検資格)について()の中に適切な語句を入れなさい。

(1) 1級および2級の受検者は、()以上とする。ただし小学生であっても、ジュニアテスト()以上を取得している者であれば、受検することができる。

(2) 3級、4級及び5級の受検者は、()以上とする。

(3) 受検者は、()する級を受検することができる。

(4) 本連盟の登録会員は、()を受けすることができる。

6. スキーバッジテストについての文章について()の中に適当な語句を入れなさい。

バッジテストでは、受検者が「自分の現在の()を知ること、()が実感できる」検定を行うことがもっとも大切です。

また、そのためのバッジテスト(技能評価)としては、「()や()の習熟度にとらわれることなく、()」を評価することを根幹に考えています。

7. スキーバッジテストにおける級別テストの内容について()の中に適切な語句を入れなさい。

テスト区分	種 目	斜 面
クラウン テクニカル	パラレルターン大まわり(整地)	急斜面
	()	()
	パラレルターン中まわり(整地)	()
	パラレルターン小まわり(整地)	急斜面
	パラレルターン小まわり(不整地)	急斜面
	フリー滑走	総合斜面
1 級	パラレルターン大まわり(整地)	()
	パラレルターン中まわり(整地)	()
	パラレルターン小まわり(整地)	中急～急斜面
	パラレルターン小まわり(不整地)	()
	フリー滑降	総合斜面
2 級	()	中急～急斜面
	パラレルターン中まわり(整地)	()
	パラレルターン小まわり(整地)	()
	フリー滑降	総合斜面
2 級 申告認定	・()は自己申告によって2級の申告認定を受けることができる。 ・希望者は自己の滑降実績などを審査申請し、()がこれを審査し、認定する。	

テスト区分	実技の内容	評価の内容
クラウン テクニカル 1 級 2 級	条件状況に対応して	・ターン運動の構成
	・()	()
	・()	・斜面状況への適応度
	・()	()
	を選択して滑る	・運動の質的内容
		()